

リトミック授業における試験項目の分析

野口美乃里

(西九大学短期大学部 幼児保育学科)

(令和4年1月15日受理)

Analysis of the Test Items in the Eurhythmics Class

Minori NOGUCHI

(*Department of Early Childhood Education and Care, Nishikyushu University Junior College*)

(Accepted January 15, 2022)

Abstract

The purpose of this study was to clarify the difficulty level of the rhythm test and to examine the relationship between the rhythm test and the piano test. Three types of rhythm tests were administered to 39 students taking the “Eurhythmics” class, and their score data were examined. In the card rhythm step test, there was a difference in the mean score of each rhythm, but there was no difference in the mean score of the four patterns of tests. In the listening rhythm step test, there was a difference in the mean score of each rhythm, but there was no difference in the mean score of each test consisting of four different rhythms. From the analysis of the rhythm test, it is necessary to have different abilities to understand rhythms visually and aurally. Furthermore, it was related between two kinds of rhythm steps and was related to a listening rhythm step test and a piano test. It was unrelated to a card rhythm step test and a piano test. It is thought that the card rhythm step test has an aim unlike two kinds of other tests.

Key words: リトミック Eurhythmics
リズムステップ Rhythm steps

I はじめに

幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領において、保育内容「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」領域であると記されており、そのためのねらいとして(1)いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。(2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。(3)生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。¹⁾の3点が示されている。

保育者には、子どもたちの生き生きとした音楽的表現を引き出すピアノ演奏や歌唱の技術が求められることは言うまでもないが、それに加えて、子どもたちの生活や遊びの中に様々な形で表出する表現の芽に柔軟に対応し、さらにそれを伸ばさせていくために、保育者には豊かな感性、高い音楽性が求められる。保育者養成においては、ピアノ演奏および歌唱技術向上のみならず、学生たちが音楽を傾聴し、その中の様々なニュアンスを感じ取りながら、それに合わせ体を動かし、音楽と調和するという経験が必須であると思われる。

ところで、リトミックの普及とそのための指導者育成に寄与する非営利活動法人リトミック研究センター（以下、リト研と略す）は、保育者養成校における指導者養成のためのプログラムを開発し、提供している。

リトミックを創案したジャック・ダルクローズ(Dalcroze. E.J.1865-1950)は、音楽教育について「最も大事な点は、正確な耳を持つこと、音の高低と強弱の無数のニュアンス、リズムの展開と対立や調整の対象をしっかりと掴むことである。最も大事なのは、音楽教育が生徒に、内的聴取力、すなわち実演におけると同じように記憶の中でもはっきりと音楽を聴きとる能力を呼び覚ますことである。」²⁾と述べている。

また、内的聴取力を養うための方法について「耳からのみでなく身体の動きを通して行われるべきである」³⁾とも述べている

本学幼児保育学科では、学生のより豊かな音楽経験と音楽表現力向上のため、平成26年度より、2年次選択科目として「リトミック」を開講し、令和3年度は40名が受講した。本科目は、リト研が認定する「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級」を取得するための講座であり、講座担当者はリト研が認定する資格を有し、かつ一定の指導歴等があることが条件となっている。講座内容は、学生自身のリズムに関する種々の能力向上を図る「リズム」、3歳児のリトミック指導法を学ぶ「ティーチング」などである。また、試験課題、採点方法などについてもリト研により定められている。具体的な試験項目は、リズムA（カードのリズムステップ）、

リズムB（聴取のリズムステップ）、およびピアノ演奏の3種である。実際の試験運用における課題充当の詳細は、例えば「カードのリズムステップ」では、6種類のカードから一人の学生につき4題を課すことになっている。しかしながら、カードをどのような組合せで提示するか、また、「聴取のリズムステップ」では8曲の課題曲から何曲を試験で扱い、どう充当するかなどについては授業担当者に一任されている。そのため、その課題提示において、組合せによってはテストの難易度に関する公平性が保てないことが懸念される。

そこで本研究では、リトミック受講学生の試験得点データに基づいて、次の3つの点について明らかにすることを目的とする。1)「カードのステップテスト」の課題の組合せについて仮説を立て、得点の平均値からそれぞれの課題の難易度を確認し、課題充当に対する配慮の必要性の有無と望ましい組合せを検討する。2)「聴取のステップテスト」について、課題充当の公平性について検討する。3) 3種のテストで測られる能力の関連についても分析し、それぞれのテスト項目の意義を検討する。

II 方法

1. 研究対象

幼児保育学科2年生の「リトミック」履修者Aクラス15名およびBクラス25名合計40名である。但し、試験当日に1名が欠席したため分析を行ったのは39名である。

本テストは授業の第14回にあたる令和3年8月3日(火)の3限Aクラス、4限Bクラス、第15回目にあたる令和3年8月6日(金)1限Bクラス、2限Aクラスで実施した。

2. テスト項目

1) テストA：「カードのステップテスト」

その場で提示されたカードのリズムを繰り返しステップする。課題は一人の学生につき表1の6種類より4題を出題する。

表1. リズムカードのステップ 試験課題

カード1	♪♪♪♪♪
カード2	♪♪♪♪
カード3	♪♪♪♪
カード4	♪♪♪♪
カード5	♪♪♪♪
カード6	♪♪♪♪

6種類の課題からどのように4題を選ぶかは試験担当者に一任されているが、これまでの指導経験に基づいて、難易度に関する下記のような仮説を立てた。

- 6種類中一番難易度の低い課題：カード1
- やや難易度の低い課題：カード2および4
- やや難易度の高い課題：カード3および5
- 一番難易度の高い課題：カード6

この仮説に基づき、カード1とカード6を全員に課し、カード2と4のいずれかとカード3と5のいずれかが入る下記の4つのパターンを構成しランダムに充てた。

- パターン1：カード1、2、3および6
- パターン2：カード1、2、5および6
- パターン3：カード1、3、4および6
- パターン4：カード1、4、5および6

2) テストB：「聴取のステップテスト」

リト研制作の試験用CDの課題曲8曲（No.7～No.14）の中から、その場で指定された1曲（4種のリズムを収録）をCDのピアノ演奏に合わせてステップする。

試験用CDの課題曲8曲にはリト研が考案した「2拍子の基礎リズム」8種類が1曲に4種類収録されている。「2拍子の基礎リズム」を表2に示している。

表2 2拍子の基礎リズム

1	♪♪♪♪	5	♪. ♪
2	♪ ♪♪	6	♪♪.
3	♪♪ ♪	7	♪ ♪
4	♪♪♪	8	♪

表3 聴取のリズムステップ課題曲の収録リズムの内訳と表出順

	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13	No.14
♪♪♪♪	1	3	2	3				
♪ ♪♪					2	3	1	2
♪♪ ♪					3	1	2	1
♪♪♪	2	4	3	1				
♪. ♪	3	2	1	2				
♪♪.					1	2	3	3
♪ ♪					4	4	4	4
♪	4	1	4	4				

1曲の中に課題①10小節、続けて課題②10小節、続けて課題③10小節、続けて課題④10小節というように40小節が続けてピアノで演奏されている。受験者は課題①の最初の2小節は止まった状態で聴き、リズムを判断し、残りの8小節をピアノ演奏に合わせてステップで表現する。続いて現れる課題②の最初の2小節間は一旦ステップを止めて課題②のリズムを聴きとり、またすぐに3小節目からステップをする。それが4種類続けられる。

課題曲8曲に収録された「2拍子の基礎リズム」の内訳と表出順は表3に示している。

課題の8曲は調や旋律が異なるため、聴く限りでは規則性に気付きにくいだが、実際はNo.7～No.10までの4曲（A群とする）とNo.11～No.14までの4曲（B群とする）に分けられ、それぞれに同じ4種の課題が表出順を変えて収録されている。本テストではA群・B群から2曲ずつNo.9～No.12の4曲を使用した。

3) テストC：ピアノ演奏

いずれも3歳児指導書に掲載されている8小節程度の課題曲（6曲）の内、その場で指定された2曲を演奏する。

3. 実施方法

上記3種のテスト中、リズムに関するテストAおよびBは同日同時時間帯に実施し、試験室に一人ずつ入室させ、前者の影響を受けないよう配慮した。Aのテストを一人ずつ行い、全員終了後、Bのテストを同じ方法で実施した。

テストCのピアノ演奏は第14回目の授業で実施した。実施方法は、試験室に学生3人を入室させ、6曲の課題曲中それぞれ2曲ずつ演奏したのちに、3人を総入れ替えする方法をとり、3人の課題曲に重なりがないよう実施した。

3種のテストから「カードのステップテスト」4題、「聴取のステップテスト」1曲（4種のリズム）、「ピアノ演奏」2曲の10項目（各10点）の得点を記録した。またテスト実施前に研究目的のためのデータ使用とビデオ撮影について了承を得た。

テストAの得点から、それぞれの課題の平均値を算出し、カード1とカード6についてはt検定を適用して有意差の確認を行った。またリズムに関するテストAおよびBとピアノ演奏の得点の相関係数を算出した。

統計検定においてはIBM社製統

計ソフト SPSS を用い、有意水準は 5 % とした。

Ⅲ 結果および考察

1. テスト A : 「カードのステップテスト」の分析

カード 1 の難易度が一番低く、カード 6 の難易度が一番高いこと、その他の 4 種についても 2 段階の難易度があることを仮定しテストを実施した。図 1 に各カードの得点の平均値を示している。

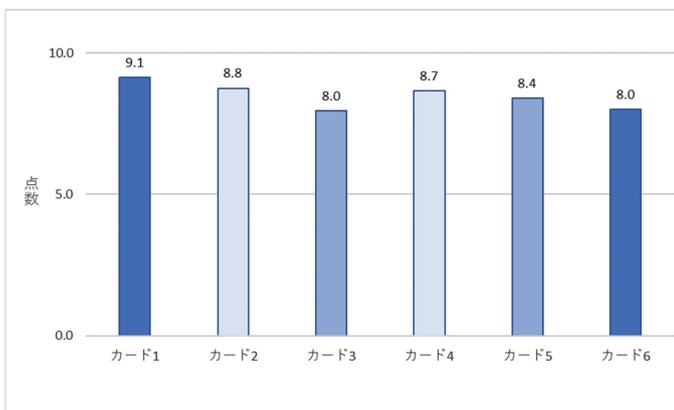


図 1 リズムカードのステップテストの平均値

図 1 に示すようにカード 1 は 9.1 点、カード 2 は 8.8 点、カード 3 は 8.0 点、カード 4 は 8.7 点、カード 5 は 8.4 点、カード 6 は 8.0 点であった。このことから、カード 1 は難易度が低く、カード 2 および 4 はその次に難易度が低い課題、またカード 3 および 5 はやや難易度が高く、カード 6 は最も難易度が高い課題であると考えられ、概ね仮説通りであった。

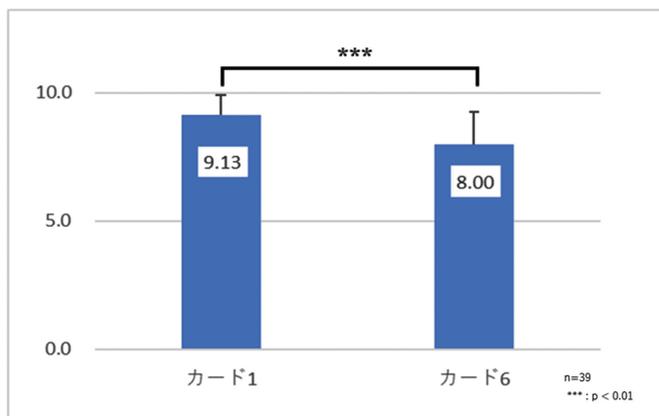


図 2 カード 1 とカード 6 の比較

次にカード間の得点差の有意性を検討するため、対象者全員が受験したカード 1 とカード 6 の得点の平均値の差について、対応ある t 検定を用いて検討した。その結果、図 2 に示すように 2 つのテストの間には有意な差が認められ ($t[38] = 6.379, p < 0.01$)、カード 1 の平均点が有意に高かった。つまりカード 1 とカード 6 には統計的

に有意な難易度の差が示されている。

表 4 には 4 つのパターンの平均点を示している。

表 4 4 つのパターン (課題の組み合わせ) の平均点

パターン 1	パターン 2	パターン 3	パターン 4
33.5	34.8	34.4	33.2

パターン 1 は 33.5 点、パターン 2 は 34.8 点、パターン 3 は 34.4 点、パターン 4 は 33.2 点で、4 つのパターンの難易度はほぼ同等であったと考えられる。

このことから、「カードのステップテスト」における 6 種のリズムカードの提示方法について、カードの難易度を考慮する必要がある、また、経験に基づいて難易度を考慮したパターンによる課題の充当は概ね適切であったと考えられる。

2. テスト B : 「聴取のステップテスト」の分析

次に「聴取のステップテスト」について検討を行った。課題曲に収録されている 8 つの基礎リズム (表 2) の得点平均値を図 3 に示している。なお図 3 グラフ中の青色は A 群、黄色は B 群を示している。

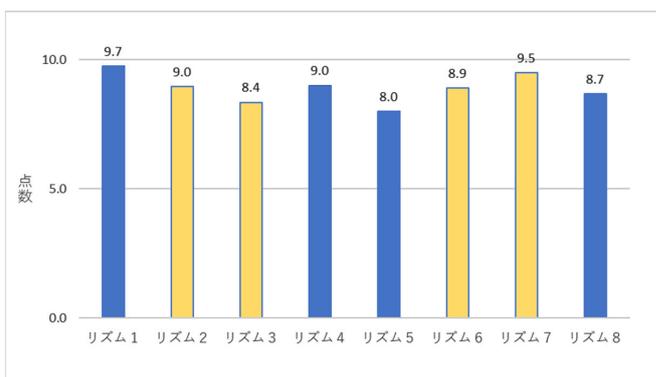


図 3 聴取のリズムステップテストの平均値

課題曲ごとの得点平均値を表 5 に示している。

表 5 課題曲毎の平均値

No. 9	No. 10	No. 11	No. 12
35.5	35.4	35.5	35.8

リズム 1 ~ 8 (表 2) の平均値についてはリズム 1 の 9.7 点からリズム 8 の 8.0 点まで 1.7 点の開きを示された。つまりリズム 1 ~ 8 の難易度にばらつきがあることが見て取れる。しかしながら、「課題曲毎の平均値」では最も得点の高かった No.12 で 35.8 点、最も低い No.10 が 35.4 点と、ほぼ同等の得点であった。つまりこのことからテストにおいてどの曲が課されても、受験者にとって

有利、不利になることはないことが考えられる。

リズムに関する2つのテスト「カードのステップ」および「聴取のステップ」の得点結果を比較し興味深いのは、カードのステップテストにおけるカード3、5、6と聴取のステップテストにおけるリズム3、5、6についてである。カード3とリズム3は同じリズム（♪♪）を成分としている。カード5とリズム5（♪♪）、カード6とリズム6（♪♪）も同様である。しかし、カードのステップテストでは、共に8.0点で最低得点であったリズム3（♪♪）とリズム6（♪♪）が、聴取のステップテストではそれぞれ8.4点、8.9点で比較的高い得点であった。また、カードのステップテストでは8.4点を獲得したカード5のリズム（♪♪）が、聴取のステップテストでは8.0点であった。つまり、同じリズムをステップする課題でありながら、カードを見てステップする課題と、音を聴いてステップする課題では得点に逆転が見られる。

カードのリズムステップではそれぞれの音符の音価について理解していることが必須であるため、八分音符の後に四分音符が現れるリズム3やリズム6は難易度が高くなると思われる。一方、聴取のステップでは音を聴いたときに具体的なリズムの形がイメージできなくても、ピアノ演奏に誘導される形で意外と簡単にステップできてしまう課題もある。また、リズム5（♪♪）では、拍子感が曖昧になりリズム6（♪♪）をステップしてしまう学生や、リズム2（♪♪）と混同し間違ったステップしたことで減点となった学生が散見された。つまり、リズムを視覚的に理解するのと聴覚的に理解するのでは同じリズムステップでも違った能力が必要であることが考えられ、本テストにおいて「カードのステップ」と「聴取のステップ」の両方が課題として設定されていることの必要性が窺える。

3. 「カードのステップ」「聴取のステップ」「ピアノ演奏」の関連

カードのステップテストの合計点、聴取のステップテストの合計点およびピアノ演奏テストの合計点の関連について検討した。表4、表5に示した通り「カード」の4パターンの得点平均値と「聴取」の4つの課題の得点平均値はほぼ同等だったことから、それぞれの課題の合計点として扱った。結果を表6に示している。

表6 2つのリズムテストとピアノテストの相関

	聴取		ピアノ	
カード	0.657	***	0.283	ns
聴取			0.522	**

註) **: $p < 0.01$, ***: $p < 0.001$, ns: $p \geq 0.05$

カードと聴取のテストの得点の相関係数は0.657 ($p < 0.001$) で有意な正の相関が示された。カードとピアノの相関係数は0.283 ($p = 0.081$) で有意な関連は示されなかった。ピアノと聴取の相関係数は、0.522 ($p < 0.01$) で有意な正の相関が示された。

ここでは2つのリズムステップの課題は相互に関連があり、聴取のステップとピアノ演奏にも関連が示されたが、カードのステップとピアノ演奏は関連しなかったことに注目したい。

ピアノ演奏においては、譜読みの段階では一つひとつの音符やリズムを視覚的に捉える必要がある。しかしながら、ある程度曲が理解できた段階からは、聴覚と記憶にシフトしていくと思われる。必ずしも楽譜の理解が充分でなくても、耳で曲を覚え、聴覚に頼った演奏をする学生もいることから、ピアノ演奏に「聴く」ことは不可欠であり、聴取のリズムステップとの関連が示されたと考えられる。

カードのステップテストでは無音の中でステップを繰り返す。そして、音の影響を受けない状況下で、学生の音価の理解度や内的聴取力、またそれを表現するために必要な、筋肉感覚で身体をコントロールする力を測っている。つまり、このテストは、「音が介在しない状況」でのみ測ることができる能力を測定しており、ピアノ演奏や聴取リズムと異なるねらいを持っていると考えられる。つまりこのことは、先述したようにダルクローズが音楽教育において最も重要視したことの一つであることを示している。

本研究の結果は、本テストにおいて「カードのリズムステップ」「聴取のリズムステップ」「ピアノ演奏」の3種が課される意義を示唆していると考えられる。

IV まとめ

「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級」講座認定試験において、3種課題中「カードのステップテスト」および「聴取のステップテスト」について、課題充当の仕方によっては公平性を担保できない懸念があった。そこで、本研究ではカードのステップテストの各リズムの難易度および聴取の各リズムと曲ごとの難易度について明らかにすることを目的とした。さらに二つのリズムテストとピアノ演奏テストの関連についても検討した。

「リトミック」受講学生39名を対象に3種のテストを実施し、得点データを用い検討を行った。

結果は以下の通りである。

1) カードのステップテストにおいて、各リズムの得点の平均値に差が見られ、テストの公平性担保のため、課題の充当には配慮が必要であることが明らかとなっ

た。また、上記に基づいて設定した、4パターンの課題組合せごとの得点の平均値には差がなく、仮説が適切であったと考えられる。

- 2) 聴取のステップテストにおいて、各リズムの得点の平均値には差が見られたが、4種のリズムで構成された曲ごとの平均値には差がなく、課題曲間における不公平は生じないと思われる。
- 3) カードと聴取のステップテストの得点の平均値の傾向から、リズムを視覚的に理解するのと聴覚的に理解するのとは同じリズムステップでも違った能力が必要であることが考えられ、それぞれのテストの目的の違いが確認できた。
- 4) 2種のリズムステップ間および聴取のリズムステップとピアノ演奏は関連が示され、リズムカードのステップとピアノ演奏には関連が示されなかったことから、カードのステップテストは他の2種の課題とは異なるねらいをもつと考えられる。

本研究は、リトミック試験時における公平性の担保を主な目的とするものであったが、その分析を通して、リトミック教育の目的の一つである内的聴取力の獲得のための教育や測定について深く考える機会を得ることができ、改めて、リトミック研究センターが提供する本プログラムが熟慮を重ね考案されたものであることが確認できた。

今後も本プログラムの意図を十分に生かした授業を展開できるよう努力し、多くの子どもたちがリトミック教育の恩恵を受けられるよう、学生のリトミック指導資格取得を進めたい。

引用文献

- 1) 文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成29年告示 幼稚園教育要領保育所保育指針幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』(2017) (チャイルド本社)
- 2) エミール・ジャック＝ダルクローズ. 板野平監修, 山本昌男役, 「リズムと音楽と教育」, 121, (2003), (全音楽譜出版社)
- 3) エミール・ジャック＝ダルクローズ. 前掲書, 52 (2003), (全音楽譜出版社)

参考文献

- 伊藤 仁美「保育者に求められる音楽表現力の育成に関する一考察」こども教育宝仙大学紀要第1巻, 9-15 (2010)